

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	1	子どもの指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100			
	2	職員の配置数は適切であるか	100			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	83	17		屋内外の段差を解消し、トイレドアや各部屋の入り口は引き戸にしている。また部屋のスペースを広く確保し、十分な生活動線を確保している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100			延長時間対応のアルバイトの参画ができていないが、時間を設けながら最小限で共有している。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	67	33		評価表の結果から業務改善へつなげるよう努めている。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100			評価の結果は、ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			100	第三者評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100			定期的な事業所内での勉強会、研修派遣、リモートでの研修参加などに参画している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100			保護者・子どもからの聞き取りや、行動観察からアセスメントを行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100			聞き取りや観察ポイントなど、支援者が共有してアセスメントできるようにしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100			担当の職員だけでなく、他の職員と相談、意見交換しながら立案している。 定期的にミーティングを行い、支援の報告や意見交換をしている。
	12	活動プログラムが固定しないように工夫しているか	100			すらら、ビジョントレーニング、SST、グループ活動など、多様な活動を組み合わせている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	83	17		学校休業日・長期休暇ではグループ活動や計画的なSSTなどを実施している。また、様々な活動を組み合わせ、飽きさせないようなプログラムづくりを意識している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	83	17		ひとり学びの時間やグループ活動など、偏りのないように配慮して計画している。余

						暇の時間には遊びが偏らないよう、余暇の提供を行っている。 利用時間の長い学校休業日にはグループ活動を取り入れ、社会性・協調性を学ぶ機会を作っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	83	17		毎朝打ち合わせを行っており、支援の統一を図っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	83	17		当日の支援報告、意見交換など、情報を共有し、改善点を話し合い、次の支援へ活かせるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	83	17		毎日、記録をとり、担当した職員だけでなく、他の職員も情報を共有できるようにしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	83	17		定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っている。
	19	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか。	83	33		利用児の状況に合わせ、個別支援計画へ組み合わせながら設定し、それに則り支援している。
関係機関や保護者との連携・関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	67	33		本人や主担当職員の参画も促していきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	100			利用開始時、年度初めには、学校と送迎に関する申し合わせを行っている。 下校時刻などの連絡、調整を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		100		該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	67	33		担当者会議には、児童発達支援事業所の先生にも参加していただき、事前の情報共有を行った。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	66	17	17	担当者会議で連携を行った。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	67	33		上益城療育センター等が開催する研修などに参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	67	33		ひとり親家庭の児との交流や算数検定の実施。

	27	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	67	33		児童発達支援管理責任者が上益城の子ども部会の会議や意見交換会へ積極的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100			その日の様子など送迎時に直接お話している。また、連絡帳アプリで日頃の活動の様子を保護者様へ連絡している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対しての家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	42	42	17	うまくいった支援は連絡帳や送迎の際に伝え、情報の共有を行っている。 機会があれば、地域の拠点施設でのプログラムを保護者様へ紹介したい。
保護者への説明責任等	30	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100			契約時、重要事項説明書に沿って説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100			連絡帳を通して、または送迎の時に家庭や学校での様子を尋ね、必要に応じて悩み事などを伺った。今後もさらに専門性を高め、保護者様がより安心して相談できるようにしたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	17	42	42	算数検定時などで保護者様同士が顔を合わせお話をする機会はある。今回のアンケートで、希望調査を行ったので、今後検討する。
	33	子どもや保護者からの相談・苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	83	17		相談や要望などには、誠意をもって対応することを心掛けている。
	34	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	50	50		ブログを活用している。
	35	個人情報に十分注意しているか	100			ホームページ上で使用する写真に顔を出してよいかどうか予め保護者に確認している。活動の写真は、事業所の端末で撮影している。個人ファイルは保管場所を定め、適切に保存している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	83	17		イラスト付きのスケジュールカードや要求のためのコミュニケーションカードを使用している。また、保護者様へも文章にした上で伝達するよう心掛けている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	67	33		算数・数学検定を行い、地域の対象者も募った。地域に住んでいる絵の先生を招き、絵のレッスンをしてもらった。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	67	33	契約時に非常時の対応や訓練について説明している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか	100		定期的に避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100		虐待防止委員会を設置し、委員会が定めた年間計画をもとに虐待防止の研修やセルフチェックを実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	83	17	個別支援計画にて、保護者に説明を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか	17	83	小麦アレルギーのある利用児様には、米粉を使用して対応した。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	83	17	定期的に出た事例をもとに、検討会を行っている。また、検討内容は職員全員が共有しやすい場所へ掲示している。

令和年6年3月実施